

「デマチラシ」にご注意！

写真は3日前に投函されていた「号外維新プレス」発行日10月9日。両面カラーで三つ折りにされていた。「都構想をつぶすデマが流れています！」と、反対派のデマに注意を喚起している。デマチラシの一例として「特別区になると財政が乏しくなる」「都構想よりコロナ対策」を挙げている。その理由らしきものが、裏面で「コロナ禍だからこそ都構想が必要」などと解説している。区役所や住所表示、特別区の財源や水道料金などについて、問題はないと断定的に述べている。



そして、「公平な立場で疑問に答えます」と大阪市役所の「お問い合わせ窓口」の電話番号まで記載している。ここは維新と一体となって大阪市廃止を推進している副首都推進局だ。「いしん同体」の広報に批判が集まっており、公平な立場なのか、はなはだ疑問である。

デマということばについて、ネットで確認すると次のように書かれている。ドイツ語のデマゴギーの略で、政治的な目的で、意図的に流す扇動的かつ虚偽の情報。

コロナ危機を反映していない財政試算で、特別区財政に不安を訴えるのがデマなのか。不要不急の大阪市廃止の是非を問う住民投票より、今はコロナ対策の全力を上げることが求めるのがデマなのか。

維新チラシには「大阪市廃止」という5文字、それに類することばが見当たらない。「都構想」や「特別区」は何回も出てくるが、なぜ「大阪市廃止」は出てこないのか。維新にとって嫌いな5文字なのだろう。大阪維新代表の松井一郎市長も、「東京23区と並ぶ新都心、大阪4区の誕生」などと語っている。先日の住民説明会でも、大阪・関西万博が予定される2025年1月に、なぜ大阪市廃止をこだわるのかという質問に対し、東京に並ぶ大阪という大都市を世界の人たちにアピールしたい、と述べていた。大都市自治体・大阪市廃止を叫んでおいて、何を言うのかである。

写真下は大阪市役所正面の看板である。大きな垂れ幕も設置された。もう一枚は自宅に届いた投票案内状である。投票用紙を含めて、どこにも維新が嫌う「大阪市廃止」の5文字が最初に入っている。地下鉄の投票案内アナウンスにも、最初に「大阪市廃止」が聞こえてくる。



前回5年前の住民投票のときは「特別区設置」だけであった。当然のことではあるが、大阪市選挙管理委員会が9月7日に決定したからだ。同じ頃、市役所の同じフロアで、住民投票に関する市住民監査請求を行っていた。「大阪市廃止」という5文字の意味はきわめて大きい。



(2020年10月17日)